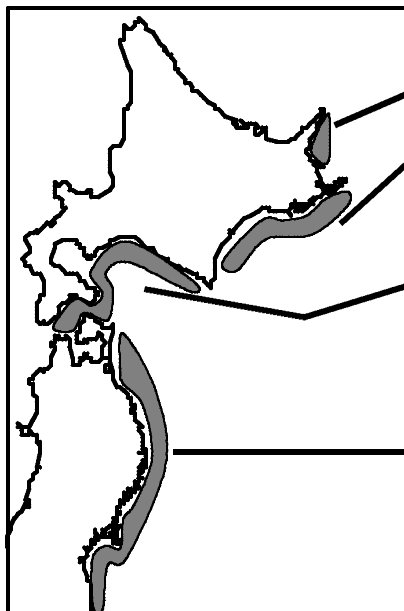


平成18年度第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2006年10月～12月)

常磐以北の北部太平洋周辺海域におけるスルメイカの来遊水準は2005年を大きく下回る



○北海道東部～根室海峡周辺海域：
来遊量は2005年を大きく下回る
魚体は20～25cmが主体

○津軽海峡～北海道南部海域：
来遊量は2005年を大きく下回る
魚体は20～26cmが主体

○常磐～三陸海域：
来遊量は2005年を下回る
魚体は23～26cmが主体

問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：青木、笠原、田中、佐藤

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話：03-3502-8111(内線7375、7376)、直通電話：03-3501-5098、ファックス：03-3592-0759

電子メール：yuusuke_satoh@nm.maff.go.jp

独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所 業務推進部

〒085-0802 釧路市桂恋116番地

電話：0154-91-9136、ファックス：0154-91-9355、電子メール：www-hnf-info@ml.affrc.go.jp

なお、本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査推進委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)、及び北海道区水産研究所のホームページ(<http://www.hnf.affrc.go.jp/>)に掲載されます。

参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場 北海道立函館水産試験場	和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
青森県水産総合研究センター	高知県水産試験場
岩手県水産技術センター	社団法人 漁業情報サービスセンター
宮城県水産研究開発センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福島県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所
茨城県水産試験場	日本海区水産研究所
千葉県水産総合研究センター	中央水産研究所
神奈川県水産技術センター	北海道区水産研究所
静岡県水産試験場	
三重県科学技術振興センター 水産研究部	

平成18年度第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2006年10月～12月）

対象魚種：スルメイカ

予測海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～北海道南部海域、
北海道東部～根室海峡周辺海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象系群：冬季発生系群（2006年級群）

魚体の大きさは外套背長で表示

1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網）

(1) 来遊量：2005年を下回る。

(2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場が形成される。

(3) 魚体：2005年よりやや大型。11月では23～26cmが主体。

2. 津軽海峡～北海道南部海域（いか釣り、定置網）

(1) 来遊量：2005年を大きく下回る。

(2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場が形成される。

(3) 魚体：2005年よりやや大型。11月では20～26cmが主体。

3. 北海道東部～根室海峡周辺海域（いか釣り、定置網）

(1) 来遊量：2005年を大きく下回る。

(2) 漁期・漁場：北海道東部海域は10月まで。

根室海峡周辺海域は11月が中心。

(3) 魚体：2005年よりやや大型。11月では20～25cmが主体。

漁況の経過（2006年6月～8月）および今後の見通しについての説明

（1）資源状態

太平洋海域に来遊するスルメイカは冬季発生系群を主体にし、それに秋季発生系群の一部が含まれると考えられている。太平洋海域における資源水準を漁獲動向から推測すると、1970～1980年代の低水準期から、1989年以降、増加に転じ、1992年以降は中位～高位水準で推移していると考えられる。近年10年間では1996年（漁獲

量：276,249トン）が最も資源水準の高い年であった。

なお、2005年10～12月の漁獲量は53,431トンで、2004年同期の115%に増加していた。海域別では、常磐～三陸海域および津軽海峡～北海道南部海域で前年を上回り、北海道東部～根室海峡周辺海域で前年をやや下回っていた（表1）。

（2）関連調査結果

第2次漁場一斉調査（道県水産試験研究機関・水産総合研究センター、8月中旬～9月上旬、いか釣り）および関連いか釣り調査（岩手県水産技術センター、8月下旬～9月中旬）によると、三陸南部～北海道東部の各沿岸域を中心にスルメイカは漁獲されていたが、2005年と異なり高いCPUE（釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）を示す点は見られなかった。前年の調査と比較すると、襟裳岬以東の北海道東部海域、三陸南部海域および沖合域におけるCPUE低下が特徴であった。また、根室半島周辺およびオホーツク海では前年同様、スルメイカの漁獲はほとんど無かった。これら調査から算出した三陸・北海道太平洋海域での平均CPUEは0.8尾であり、2005年（8.3尾）の9%に大きく減少し、1990年以降では1990、1999年に次ぐ低いCPUEであった。そして、近年5年平均比でも16%と低い水準であった（表2）。

（3）2006年の各海域の漁況経過（主に6月～8月、一部暫定値）

2006年6～8月の高知県以東太平洋側主要港でのスルメイカ漁獲量（釣り、定置網、底びき網、まき網等；生鮮）は23,702トンであり、2005年（34,998トン）を大きく下回り、近年5年平均比で75%となった（表3）。この漁獲量減少の原因として、太平洋を北上する冬季発生系群の資源水準の低下および日本海からの回遊経路の変化等が考えられる。以下に海域ごとに述べる。

- ・房総以西海域：高知県での釣りによる6～8月の漁獲量は101トンであり、2005年（249トン）の40%に大きく減少した。特に清水港（足摺岬）での漁獲量減少（122トン→22トン）が顕著であった。和歌山県での釣りによる6～8月の漁獲量は63トンであり、2005年（92トン）の69%に減少し、CPUEも2005年を下回った。三重県での釣りとまき網による6～8月の漁獲量は330トンであり、2005年（116トン）を上回った。釣りのCPUEも2005年の143%に増加した。静岡県での釣りによる6～8月の漁獲量は32トンで、2005年（34トン）並であり、CPUEも2005年の112%と前年並みであった。神奈川県での釣りと定置網による6～8月の漁獲量は1トンであり、2005年（4トン）を下回った。しかし、釣りのCPUEは2005年並であった。千葉県での釣りと定置網による6～8月の漁獲量は6トンであり、2005年（38トン）を大きく下回り、釣りのCPUEも2005年の23%に減少した。以上のよ

うに6～8月の房総以西海域では、三重県および静岡県を除き、来遊量が前年を下回る状況になっていたと推測される。

- ・常磐海域：茨城県での沖合底びき網および小型底びき網による4～6月の漁獲量は9トンであり、2005年（7トン）並であったが、沖合底びき網のCPUEは2005年の31%に減少した。福島県での釣りおよび底びき網による6～8月の漁獲量は91トンであり、2005年（195トン）を大きく下回った。沖合底びき網のCPUEは2005年の29%に大きく減少したが、釣りのCPUEは2005年の279%に大きく増加していた。以上のように、6～8月（一部5月）の常磐海域では、ほぼ全域で前年を下回る来遊水準であったと推測される。
- ・三陸海域：宮城県での釣りによる6～8月の漁獲量は1,332トンであり、2005年（509トン）を大きく上回り、CPUEも2005年の145%に増加した。また、定置網による6～8月の漁獲量も727トンで、2005年（222トン）を大きく上回った。一方、底びき網による6～8月の漁獲量は277トンであり、2005年（694トン）を大きく下回り、CPUEも2005年の25%に減少した。岩手県での釣りによる6～8月の漁獲量は516トンであり、2005年（944トン）を大きく下回り、CPUEも2005年の58%に減少した。しかし、定置網による6～8月の漁獲量は1,556トンであり、2005年（1,455トン）をやや上回った。青森県白糠港および八戸港の釣りによる6～8月の漁獲量は1,231トンであり、2005年（2,736トン）を大きく下回り、CPUEもそれぞれ、2005年の63%、50%に減少した。八戸港のまき網による6～8月の漁獲量は1,842トンであり、2005年（10,916トン）を大きく下回った。以上のように、6～8月の三陸海域では、宮城県を除き前年を下回る来遊状況であったと推測される。
- ・津軽海峡～北海道南部海域：青森県大畑港の釣りによる6～8月の漁獲量は529トンであり、2005年（1,164トン）を大きく下回り、CPUEも2005年の63%に減少した。渡島支庁における釣りおよび定置網による6～8月の漁獲量は13,140トンで、2005年（11,602トン）を上回った。しかし、函館港近海における釣りのCPUEは2005年の77%に減少した。胆振・日高両支庁における釣りと定置網等による6～8月の合計漁獲量は1,364トンであり、2005年（1,764トン）を下回ったが、日高支庁浦河港における釣りのCPUEは前年比95%であった。以上のように6～8月の津軽海峡～北海道南部海域では、津軽海峡～海峡東口青森県側で前年を下回り、それ以外の海域ではほぼ前年並の漁獲であった。しかし、日高支庁周辺海域を除き、CPUEは前年を下回っていた。これらのことから、6～8月の来遊群の豊度は前年をやや下回る水準であったと推測される。

- ・北海道東部海域：2005年は前年と同様に8月には釣り漁業が本格化した。しかし、北海道東部海域での釣りによる7～8月の漁獲量は393トンであり、2004年（1,996トン）を大きく下回った。また、釧路港における釣りのCPUEも2004年の35%に大きく減少した。
- ・根室海峡周辺海域：羅臼近海における釣りおよび定置網等による7～8月の漁獲量は1トンで、2004年（2トン）並であった。なお、釣りによる漁獲は9月25日まで確認されておらず、前年と同様に初漁が遅れている。

（4）魚体の大きさ

- ・8月下旬～9月中旬の漁場一斉調査（いか釣り）およびその他のいか釣り調査で漁獲されたスルメイカの全調査地点での外套背長組成は、19～22cm主体でモードが21cmの単峰型を示していた。2004年同期の調査結果では、18～21cm主体でモードが20cmであり、2005年は全体的に1cm大きかった。海域別では三陸海域が20～21cm主体でモード21cm（2004年：17～20cm主体でモード19cm）、下北半島～襟裳岬以西海域が19～23cm主体でモード21cm（2004年：18～22cm主体でモード20cm）、北海道東部海域（襟裳岬以東）が16～22cm主体でモード21cm（2004年：18～21cm主体でモード19cm）であった。

（5）今後の見通しの説明

- ・根室海峡周辺海域：根室海峡周辺海域の来遊状況に大きな影響を及ぼすと考えられる国後島周辺海域の7～8月の表面水温は、高温傾向であった2004年より低いため、来遊条件としては前年よりも悪化すると推測される。なお、オホーツク海の表面水温は2004年よりも高温傾向で推移しているため、主漁期は前年と同様に11月以降と予測される。8月下旬～9月上旬に実施されたオホーツク海および根室半島周辺でのいか釣り調査では、スルメイカの濃密群は確認できなかった。また、根室海峡周辺海域に来遊すると推定されている太平洋沖合北上群は、5月に実施された新規加入量調査から、2004年を下回る水準と推定されている。以上のことから、根室海峡周辺海域に来遊するスルメイカは前年を下回る水準と推測される。
- ・北海道東部海域：2005年8～9月上旬までに北海道東部海域に来遊したスルメイカは、9月上旬までの漁況情報および第2次漁場一斉調査結果等から昨年を大きく下回る水準と推測された。2000年以降、北海道東部太平洋岸の主漁期は8～10月であり、11月には漁獲量が大きく減少する。そのため、今後は1ヶ月程度でこの海域の漁期は終了

すると予測される。

- ・ 津軽海峡～北海道南部海域：津軽海峡～北海道南部海域の漁況は北海道東部海域からの南下群の動向と関連が深く、この南下群は津軽暖水の勢力減少にともなう水温低下とともに津軽海峡東口周辺海域に来遊すると考えられている。2006年の襟裳岬以東の北海道東部沿岸域の来遊群は昨年を大きく下回る水準と予測されるため、津軽海峡～北海道南部海域に来遊する資源水準も2005年を大きく下回ると推測される。
- ・ 常磐～三陸海域：常磐～三陸海域の2006年の来遊状況は、漁獲量やいか釣りCPUEの比較から2005年を下回る水準と推測された。10月以降の来遊水準に関しても、周辺海域での調査結果および漁況状況から2005年を上回るとは考えにくく、前年を下回る水準になると推測される。中でも、津軽海峡以北の来遊群と特に関係が強い三陸北部海域については、前年を大きく下回る水準になると予測される。
- ・ 海域別の外套長組成：海域別の外套背長組成を前年と比較すると、三陸海域で2cmモードが大きく、下北半島～襟裳岬以西海域では1cmモードが大きく、北海道東部海域では2cmモードが大きくなり、全体的に2005年より1～2cmほど大型であった。そのため、2006年11月の漁獲主体の外套背長は、2005年より1～2cm大きくなると推定される。

表 1. 太平洋海域におけるスルメイカの10～12月漁獲量

年	千葉以西	常磐・三陸	津軽海峡周辺	道東・根室海峡	合 計
1998	67	5,688	19,051	6,085	30,891
1999	167	13,446	7,477	4,196	25,286
2000	185	19,848	22,469	32,550	75,051
2001	139	33,922	22,452	16,211	72,724
2002	148	42,041	8,802	7,482	58,473
2003	39	14,029	34,805	4,642	53,515
2004	100	25,828	12,891	7,449	46,268
2005	143	30,026	16,263	6,999	53,431

(釣り, 定置網, 底曳き網等による, 生鮮, ト)

表 2. 第 2 次漁場一斉調査および関連調査(8月下旬～9月中旬)における
いか釣り試験での操業地点数と平均CPUE(釣機1台1時間当たり漁獲尾数)

年	操業地点数	平均CPUE	年	操業地点数	平均CPUE
1991	57	1.86	1999	37	0.66
1992	55	17.90	2000	51	5.28
1993	41	4.02	2001	40	6.53
1994	28	0.83	2002	51	2.79
1995	40	1.50	2003	49	3.62
1996	47	4.10	2004	52	2.93
1997	41	5.65	2005	51	8.25
1998	33	2.63	2006	48	0.76

表 3. 太平洋海域におけるスルメイカの6～8月漁獲量

年	千葉以西	常磐・三陸	津軽海峡周辺	道東・根室海峡	合 計
1998	383	5,524	6,121	414	12,442
1999	569	12,897	6,558	216	20,239
2000	412	26,466	7,948	2,706	37,532
2001	607	13,771	8,556	642	23,576
2002	538	15,531	11,721	96	27,887
2003	506	21,395	11,302	240	33,443
2004	822	24,200	10,701	1,546	37,269
2005	533	17,754	14,543	2,168	34,998
2006	533	7,698	15,060	412	23,702

(釣り, 定置網, 底曳き網等による, 生鮮, ト)